

インターンシップ学修に効果的な教材の開発と評価

- 前年度の課題を活用したカード型グループワーク -

前田 吉広* 向井 勝也**

Development and Evaluation of Effective Teaching Materials for Internship Studies

Yoshihiro MAEDA* Katsuya MUKAI**

ABSTRACT

In past years, some students participating in internships have reported a vague sense of anxiety about the unknown nature of practical training. This year, in order to resolve this anxiety, we developed a card-type group work material based on the failure stories described in the previous year's internship experience reports of participating students, and verified its effectiveness through a questionnaire survey. As a result of the verification, the students' satisfaction with this year's group work was higher than that of the previous year, and it was confirmed that it was effective in reducing their anxiety about practical training, which was the original purpose of the program.

キーワード：インターンシップ、事前研修、グループワーク、教材

1. はじめに

本学では、2013 年度より「BINGO OPEN インターンシップ」の名称の下、それまで学部・学科で実施されていたインターンシップを、大学教育センターの運営組織「自己未来創造室」にて集約し、推進している。自己未来創造室ではインターンシップを通じた学生の成長を促すため、実習の前後に計 2 回、参加者全員が集まって学び合う合同研修プログラムを実施してきた。事前研修では 1 日をかけて、目標設定やマナー講座に加え、コミュニケーション能力の向上とチームビルディングを目的としたグループワークを行なっている。グループワークでは、同じ実習先の学生同士で価値観を共有し、関係性構築を目的としたコンセンサスワークを実施してきた。コンセンサスワークでは、価値観の違いが表出しやすく、積極的に楽しんで取り組むことができるテーマを優先して選定しており、これまでインターンシップと直接関係のあるテーマは選んでこなかった。そのような背景もあり、例年、事前研修の振り返りアンケートに於いて、グループワークに対し「面白かった、ためになった」といった一定の評価は得られていた。しかし一部の学生からは、「初めてのインターンシップ参加にあたり、失敗をしないか、トラブルに遭遇した時に対処できるか」といった不安感を訴えるコメント等が複数見られたため、事前研修でこういった不安を解消する必要があると捉えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、インターンシップ参加にあたって学生が抱えている“漠然とした不安”等の課題

*大学教育センター講師 **大学教育センター特命講師

について、過去のインターンシップ体験談をもとに事前対策を講じることによって軽減させ、主体的な行動を促すために有効な研修の在り方を明らかにすることである。

3. 先行研究

インターンシップ参加前に実施する事前研修の目的と内容について調査をおこない、本研究の目的である学生達の漠然とした不安を取り除く取り組みが既に存在するかどうか確認をおこなった。はじめに全国の大学において、インターンシップとその事前研修について Web 公開している 30 大学について、事前研修の実施内容を調べた。1 位：「マナー研修」30 大学、2 位：「目標設定」11 大学、3 位：「業界企業研究」8 大学であった。そして、本学が「マナー研修」「目標設定」に加えて実施している「グループワーク」を実施している大学は 3 大学に滞まった。インターンシップの事前研修では、受入先企業に失礼がないよう社会人としての最低限のマナーを身につけることが最も重要視されている。インターンシップを単なる業務体験とするのではなく、目的を持った学習活動として意味付けるための目標設定や、将来の職業選択の基盤にもなる業界研究の一環とした企業研究も取り組まれていることがわかったが、本学のように参加学生同士の絆を事前に深めることや、実習現場でのコミュニケーション促進を目的としたグループワークに取り組んでいる大学は少ないことがわかった。

次に、インターンシップに係り、事前研修のキャリア意識向上・社会人基礎力伸長に対する有効性を検証した報告は数少ない。その中で、岡本・園田・曾我・深堀・岸(2019)¹は、事前学習およびインターンシップが、社会人基礎力の自己評価の向上に有意に影響を与えたことを明らかにしている。そして山本・松坂(2022)²は、低学年を対象としたインターンシップの教育的効果を高める上では、事前学習が重要であると考え、事前学習において質問行動を促す学習と練習を取り入れた。その結果、学生は実際の場面に応用でき主体的な行動につながり、キャリア意識の向上、社会人基礎力の伸長に影響したことを報告している。

近年、民間企業によるインターンシップ、職業体験のマッチングサービスが急激に増えており、学生にとって事前準備不要で、気軽に短期間、業界や仕事について学べる機会が増えてきているが、事前研修をおこなうことでインターンシップ期間中の教育効果が高まることは先行研究からも明らかであり、大学が主催するインターンシップにおける事前研修の質的向上による教育効果を高める試みは、インターンシップを通じて自己の成長を求める学生にとって有益で意義のあるものだと考える。

4. 研究の仮説と検証方法

本学では、インターンシップに参加した学生全員に対し、実習体験を振り返り、自己の学びを 2,400 文字程度の体験レポートとしてまとめる課題を毎年課している。この体験レポートには、実習参加者の学びや成長が記載されているのはもちろん、インターンシップ先で遭遇したトラブルや失敗談など、実習時に気をつけるべきことなどの情報が数多く記載されている。これらのトラブル・失敗情報は、次年度の学生たちにとって失敗を未然に防ぐことのできる可能性を秘めたものにも関わらず、これまで積極的に活用されていなかった。そこで、インターンシップ実施前の事前研修において、前年度の体験レポートを通じて報告された「実習中のトラブル・問題」をもとに、「予想されるトラブル・問題を乗り越えるには」をテーマにしたカード型グループワーク教材を開発し実施した。この実践により、次の 3 点の効果が期待できる。

- ① [実習前] 予想されるトラブル・問題点に対処するための多様な視点と解決案を持ち、解決する意欲と態度を育む。
- ② [実習前] 前年度までのねらいとしていたチームビルディング形成と、実習で求められるコミュニケーション力を高めることができる。

- ③ [実習中] 事前研修グループワークでの学びを活用して、インターンシップ実習でのトラブル・問題点に対処することができる。

実践後、事前研修終了直後のアンケート、そして実習実施後の事後研修時のアンケートの分析により、上記3点についての成果を検証する。

5. 研究の概要

(1) 教材の準備

前年度（2022年度）のインターンシップ参加学生116名分の体験レポートとともに、実習先に関係なく、今年度（2023年度）以降多くの学生が遭遇すると予想される実習中のトラブル・問題を抽出した。その後、抽出されたトラブル・問題全72件の内、その要因として考えられる課題を12種類に分類してカード化し、解決策について話し合うテーマが記載された反省シートを1課題につき2枚、計24枚作成した。そして、反省シートに記載されたトラブル・問題の要因を12種類の課題カードの中から選び、解決策を提案すると得点が得られるというグループワークに取りまとめた。その他、提案された解決策や各自が入手した得点を記録するための「グループ別記録シート（A4サイズ）」を準備した

表1. グループワークでの使用ツール

名称/仕様	内容
反省シート（24種類、A4）	インターンシップ先における学生の失敗談・反省内容が、背景と合わせてストーリーで記載されている。
課題カード（12種類、名刺）	トラブル・問題の要因として考えられる課題が記載されている。 種類) 1. 勇気不足、2. 準備不足、3. 発表経験不足、4. 緊張、5. 能力不足、6. 体調管理、7. 計画不足、8. 質問不足、9. 確認不足、10. コミュニケーション不足、11. 意欲積極性不足、12. 視野の狭さ
得点カード（2種類、名刺）	提案者に対して配られる評価点（1、2点）が記載されている。

反省シート <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">1</div> <div style="margin-top: 20px;"> 次に僕がインターンシップ中に頑張ったことは、第三次産業の販売で道の駅で醤油を販売したときです。理由は、初めて営業というものを体験して、そこで営業はとても難しいものという事が分かったからです。お客様に今需要がないものを、1から説明して買ってもらうには、沢山の工夫がいるという事がわかりました。僕は、普段自分から話しかけたりするのがあまり得意では無いので最初はとても緊張しながら、ぎこちない感じで営業をしていました。しかしそれでは、全然売れず、 <small>(中略)</small> 僕はいつも普段から限られた友達とずっと一緒にいることが多いので、初対面の人と話したりコミュニケーションをとることがあまり得意ではありませんでした。 </div>

図1. 反省シートの例

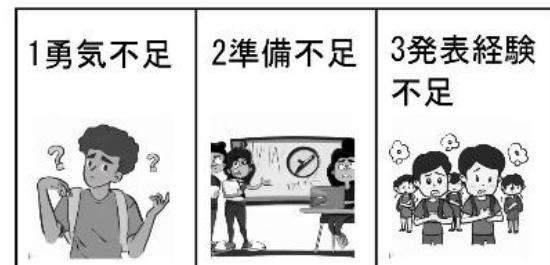


図2. 課題カードの例

(2) グループワークの実施 (指導案)

BINGO OPEN インターンシップ2023年度事前研修・グループワーク指導案						
項目	内容	時間	具体	学生の活動	スタッフの支援	備考
準備	必要物封筒		1班ごとに1封筒 反省シート8枚 課題カード12枚×5名分 ポイントカード40枚		各班の最小整理番号机に事前に置く	
受付	班別に着席		1班 6名×24	名簿、配置図に基づいて着席する	座席表を掲示	午前の行事で把握した欠席者をもとに班編成・座席表を修正する
導入	自己紹介	5分	グループごとに自己紹介を行う	学生は①氏名②学部学科③学年④実習先⑤インターンシップに期待することを話す	各グループ巡回	実習先が同じ学生を同じグループに入れる
	アイスブレイク	5分	2人1組でジャンケン＆質問	「勝った人が負けた人に、質問を一つする」繰り返し	各グループ巡回	
ルール説明	趣旨説明	2分	今回のGWの目的	説明を聞く		
	ルール説明	6分	事前にビデオ撮影した動画を流してルール説明	動画を見る		キャリアデザインゼミの学生がワークした様子を撮影・編集
	司会＆記録者決定	2分		グループごとに、ワーク1・ワーク2の際の司会＆記録者を1名ずつ決める。	各グループ巡回	
展開	グループワーク 1	25分	①司会者は「課題カード」12枚(輪ゴム止め)をグループメンバーに配る。 ②司会者は「反省シート」の中からランダムに1枚を選び、その内容をメンバー全員で共有する。 ③「反省シート」に記載された問題の原因となる課題を、手持ちの「課題カード」から選び出し、その解決策・事前対策案が思い浮かんだら挙手をしてメンバー全員に発表の意思を伝え、「課題カード」を提示しながら課題と解決策を発表する。 ④発表を聞いた4名は発表がされたら拍手し、同意賛同するなら挙手する。賛同者が4名or3名の場合は2点ポイントカード、賛同者が2名or1名の場合は1点ポイントカードを得る。 ⑤司会者は、他のメンバーから他の課題・解決策の発表がないか尋ね、発表を促す。すでに出された「課題カード」の場合は不可、新たな「課題カード」を出す場合のみ発表可。発表は1人1回のみ。	各グループを巡回し、スタート直後の時点では、ルールを理解できていないと思われる班に支援する。	【司会・記録者の役割】 反省シートの読み上げ 発言の促しや深堀りの質問 得点カードの配布 記録シートへの記入 【メンバーの役割】 解決策の発表 (課題カードの選定を含む) 他者の解決策に対する評価	
	グループワーク 2	25分	⑥誰も発表することができなくなったら(4人とも発表したor発表する人がいない)そのセッションは終わり。なお、1セッションごとに、どの策が最も有効か等、話し合いするのがよい。 司会者は改めて「反省シート」をランダムに1枚選び、②～⑤を繰り返す。 ⑦司会者は、「GW記録シート」に記入しながら進める。「案の具体」欄にはキーワードを箇条書きすれば、時間は要しない。司会者は「GW記録シート」に記入しながら、2点ポイントカードを得た意見の中から、最適候補を「Respon入力候補」欄に記録しておく。 ⑧制限時間25分。5名のメンバー全員の点数を比較し、最も点数が高い人を挙げ、メンバー全員で拍手する。 ⑨25分が経過したら、全体司会者の指示にしたがって2回目のグループワークとなる。その際に司会者は交代する。	2回目のグループワークへの移行がスムーズに行われているか巡回支援する。		
	Respon入力	5分	2名の司会者が、それぞれ使用した「GW記録シート」をもとに、グループとしての最適解一つずつを決定し、Responに入力する。	Respon入力を順調に行っているか支援する。		
まとめ	Responを全体共有	10分	Respon入力結果を紹介する。数班指名して全体発表させる。 ☆マークが多く付いた事例を紹介する	①総合司会者が紹介する事例を聞く。 ②指名された班は全体発表する。 ③24班が入力した内容、48事例を読み、☆を3つづつ付ける。		Responは3期終了時まで残しておく。「困ったときに参考にする」とができる。 なお、ResponをExcelで整理した表をCerezoにアップし、学生が活用することを促す。

事前研修会当日の様子を、写真 1. 写真 2. で紹介する。



写真 1. ルール説明動画視聴の様子



写真 2. グループワークの様子

(3) 解決策の共有

グループの司会者は、グループワークの最後に各セッションで最も賛同が多かった解決策を LMS に入力した。入力された 61 件の解決策は、一覧表に加工してオンラインで公開し、インターンシップの事前・事中において参考にできることを学生に周知した。表 2. は公開した解決策の一部である。

表 2. 公開した解決策（一部）

「コミュニケーション不足」への対策
<ul style="list-style-type: none"> 普段からボランティアなどでいろいろな人と交流をすることで、自信がつき、初対面の人とも話すことができる。よって、お客様との距離が縮めやすくなり、自分の意見を適切に伝えることができる。 自分から話しかけが余りないこと、普段限られた友達と一緒にいることから、コミュニケーション不足が課題だと考えられる。コミュニケーション力を向上させるためには、初対面の人に対して、積極的にハキハキとした声で挨拶をしていくことから始めれば良いと思う。
「準備不足」への対策
<ul style="list-style-type: none"> 興味がないインターンシップ先でも、その企業を調べる事が重要だ。その企業での活動目標を設定することで、興味がないインターンシップ先でも、モチベーションを上げることができる。これにより、充実したインターンシップになる 発表などの緊張を緩和するためにも発表の練習や質問内容の作成・暗記、どのような体験ができるかやどんな職場でどんな人がいるかなど事前にできる準備をやれるだけやってインターンシップに参加する必要がある。

6. 結果と考察

(1) グループワーク直後 [実習前]

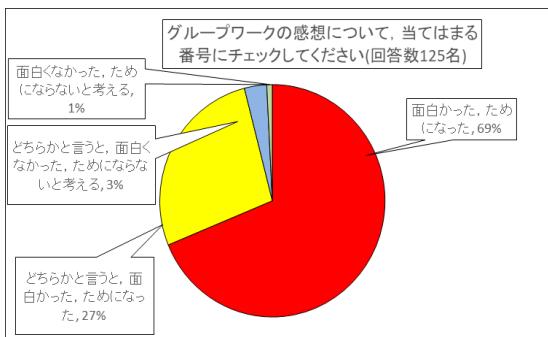


図 3. グループワークの感想調査結果

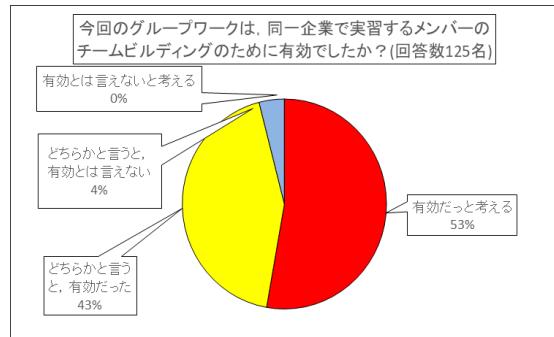


図 4 チームビルディング有効性調査結果

図3.図4.はグループワークに対するアンケートの集計結果である。図3において、回答者125名中86名(68.8%)が、4件法で最も評価の高い「面白かった、ためになった」と回答した。また、図4.のチームビルディングの有効性を問う質問結果においては、「有効だった」と回答した人数が66名(52.8%)と最も多く、「どちらかと言うと、有効だった(43%)」の解答を加えると、全体の95.8%が肯定的に捉えており、前年度までのコンセンサスゲームで狙った目的は達成できたものと考える。

表3.グループワークに関する記述の分類

記述内容の分類	頻度
多様な意見・視点が得られた	44名
話す力・聞く力を高められた	21名
意見を発表する練習になった	11名
参加メンバーの結束が強まった	5名
いろんな意見が聞けて面白かった	4名

表4.「多様な意見・視点」記述の内容分類

記述例	分類	頻度
自分はこれが最適解じゃないかと思っても、他の人は別の選択肢が最適解だと考えていて、ひとつの視点だけだと反省点も解決策もまだあるのに気づけないのだと感じた。 グループで話し合ってみて、自分が考えていたことと同じ意見もあったが、違った意見を聞けてこういう考えがあるということが分かって改めて良かったです。	異なる意見	10
仲が深まりつつ、多種多様な意見も聞けているいろんなアイデアが吸収出来たのでとても楽しかったです！	多様な意見	10
課題について複数で意見を出すためたくさんの解決策を見つけ出すことが出来ました。新しい発見に気がつくことができとても楽しい経験にすることが出来ました。	多くの意見	5
自分だけだと思い付かない解決策が出てくるので、新しい発見になつたし、実践してみようと思いました。	ハッとする考え方	8
今回のグループワークはとっても有意義なワークとなったと感じました。自分以外の意見をしっかりと聞くことで視野が広がりました。	視野の拡がり	8
	その他	3

表3.はグループワークの感想に関する自由記述内容を分類集計した表である。自由記述欄の記述で最も多かったのが「多様な意見・視点が得られた」ことに関する肯定的意見で、計44名(約35.2%)が類似の意見を投稿していた。続いて「話す力・聞く力を高められた(21名)」「意見を発表する練習になった(11名)」といった傾聴力・表現力などのコミュニケーションスキルを高める場となったことを評価する意見が多かった。コミュニケーションに関するこれらの意見から、本学がこれまでコンセンサスゲームによって対策をおこなってきた、「緊張で自らの考え・意見を言い出せなかった」「担当者の方が忙しそうで、声を掛けられなかつた」といったコミュニケーション問題への対策として一定の役割を果たしたと言える。

「多様な意見・視点」を挙げた記述について、さらにその記述内容分類を行った分類集計結果が表4.である。「異なる意見」「多様な意見」「多くの意見」を聞く場になったことを挙げた記述が計25件あった。そしてさらに、「新しい発見、ハッとする考え方ふれた」「視野を広げる場になった」という認知的視点を挙げた記述が計16件あり、今回実施したグループワークが単に「自分と異なる価値観の受容」に留まらず「新たな視点・価値観形成」に繋がる場となる可能性があるものと考える。

図5.は、事前研修終了時に「事前研修の全プログラムにおいて、『インターンシップの不安が解消された』『自信につながった』と思うのはどの内容ですか?」と尋ねた集計結果である。回答者数146名の最も多くの学生が挙げたのが「グループワーク」だった。また、前年度との比較を見ると、最も肯定的評価が上昇したのは「グループワーク」だった。これらのことから、今年度の「グループワーク」の改良は、学生にとって有益な

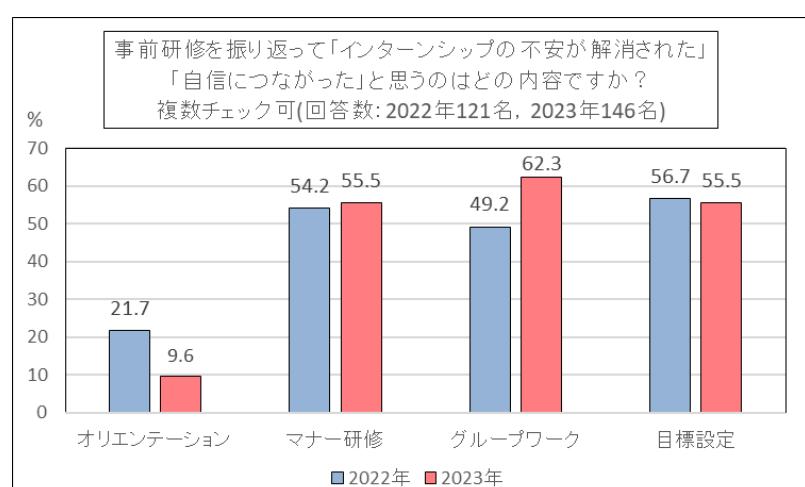


図5.事前研修の各内容の肯定的評価経年比較

改善につながったと評価できる。

これら、グループワーク直後のアンケート結果をもとにすると、今回実施したグループワークは仮説②で挙げた前年度までのグループワーク（コンセンサスゲーム）のねらい「チームビルディングの形成」と「コミュニケーション力の向上」を継続させることはできたものと考える。そして、仮説①「実習開始前の時点において、予想されるトラブル・問題点に対処するための多様な視点と解決案を持ち、解決する意欲と態度を育む」については、図3、図5で挙げたとおり、今回のグループワークに対する学生の肯定的評価により、効果があったと考える。そして、表5、表6の自由記述整理により、多くの学生がトラブル・問題点に対して「多様な視点を持って対応する」姿勢を持つことができ、「新たな視点」を持ってインターンシップに臨む、という高い意識を持った学生もいることが分かった。このように、新たに開発したグループワーク教材によって、学生たちは過去にインターンシップに参加した先輩たちが直面したトラブルや失敗を事例に、未然に対処方法を考えることで実習への不安を軽減させることができたことが、グループワークへの評価を高めたと考えられる。

(2) インターンシップ後 [実習後]

インターンシップを終え、9月16日に事後研修を行った。その際、事前研修で行ったグループワークの有効性を尋ねるアンケートを実施した。

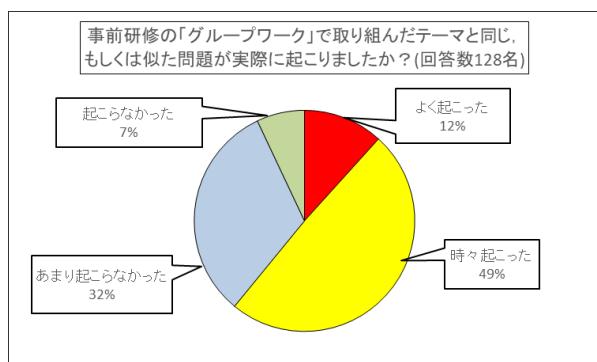


図6. 問題が実際に起きたか？の回答集計

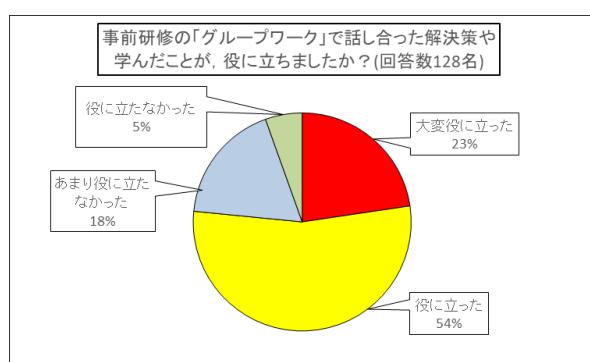


図7. グループワークが役立ったか？の回答集計

図6.は「事前研修の『グループワーク』で取り組んだテーマと同じ、もしくは似た問題が起こりましたか？」を尋ねた回答集計であり、「よく起きた」と「時々起きた」を合わせると61%であった。図7.は「事前研修の『グループワーク』で話し合った解決策や学んだことが、役に立ちましたか？」を尋ねた回答集計であり、「大変役に立った」と「役に立った」を合わせると76%となり、『グループワーク』の成果が一定程度あったことが分かった。

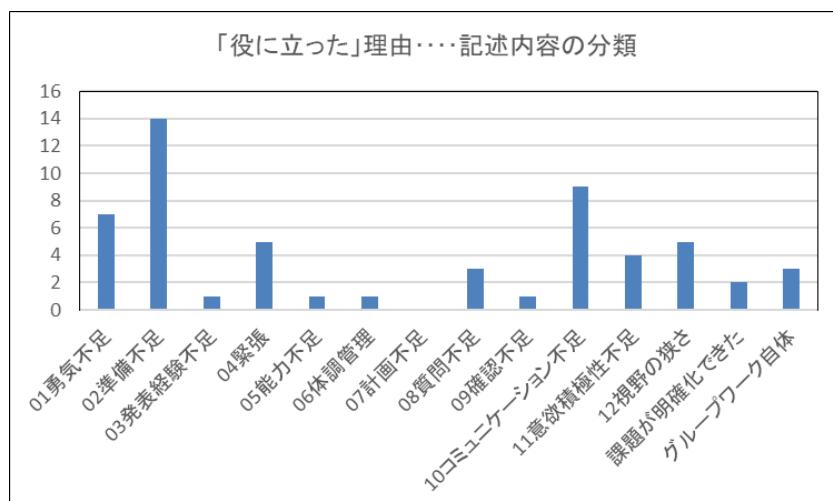


図8. 「役に立った」理由・自由記述内容の分類集計

図 7 の回答について、回答の選択理由(自由記述)を記述内容分類し集計したものが図 8 である。12 種類の課題カードに基づいた分類を行った。グループワークで学んだことを実習で役立てたことは多い順に

- 1位 準備
 - 2位 コミュニケーション
 - 3位 勇気
- であった。

表 5. 「役に立った」理由 (自由記述) 例

「役に立った」理由 (自由記述)	分類
事前に実習先の情報を知っておいた方がいいという解決策を見たので実践したところ、情報があるのとないのとでは得られる情報量に大きな差があると気づいたから。	準備不足
コミュニケーション能力を生かすことを事前に学んだことで、実際インターンシップをした際に明るい雰囲気を作り出し全員のモチベーションが高い状態で課題を遂行できた。	コミュニケーション不足
質問していいか分からずタイミングがあった時に、まず声をかけてみるという行動を起こすことができた。	勇気不足
説明されたことに対して、質問をすることは失礼なことではないことを事前研修のグループワークで学びました。インターンシップ先では、何か分からずところがあったら積極的に質問するように心がけ、失敗を未然に防ぐことが出来ました。	意欲積極性不足

そして、表 5 は、「役に立った」理由 (自由記述) における代表的記述である。「グループワーク」での学びを意識において、インターンシップ中のトラブル・問題の解決に活用したことが分かる記述を確認することができた。

これらの自由記述から、事前研修でおこなったグループワークの効果は明らかであり、仮説③「実習において、事前研修グループワークでの学びを活用して、トラブル・問題点に対処することができる。」について一定の成果があったと考えられる。

表 6. 「役に立たなかった」理由 (自由記述) 集計

「役に立たなかった」理由	分類	頻度
そのような事象に出くわさなかつたため。 同じような場面があまりなかつたから。 グループワークに登場したシチュエーションにはならなかつた。	遭遇しなかつた	15
グループワークを行つた時には覚えていたが、実際に経験してみると頭の中から抜けていた。とっさにグループワークで学んだことが出てこなかつたのが反省点。 実際にわかっていてもそれを使う勇気がなかつた。 その場面、状況でグループワークのことや事前研修のことについて思い出す余裕がなかつた。	分かつていてが活用できなかつた	7
後々考えると、事前研修での問題と似てると思う出来ごとはありました。しかし、それが起こる前に事前研修を念頭に置きながら動いていたことはなかつたため。	GWでやつたことを忘れていた	4
自分は大丈夫だろうという慢心から、正直、深く考えていませんでした。その結果、どういった解決策があったのかが思い出せませんでした。	事前研修の成果不足	2

一方、「役に立たなかつた」「あまり役に立たなかつた」と回答した学生が 23% いた。この理由 (自由記述) を集計したのが表 6 である。「同じような場面があまりなかつた」という記述が 15 件と最も

多い反面、「分かっていたが活用できなかった」という記述が7件、「グループワークでやったことを忘れていた」という記述が4件あった。この記述により、解決策の具体的活用方法に係るガイダンスの必要性があることが課題であると捉えた。

「トラブル・問題点の対処法・解決策」を知っていた・理解していたが、実践できなかった・活用できなかった学生が、実践できるようになる、すなわち図9の第Ⅱ象限にいる学生を第Ⅰ象限に移行させるには、どういう方法が考えられるだろうか。松坂・山本(2022)は、質問行動をインターンシップで実践できるようにするために、実際にインターンシップ中に遭遇する場面を設定したペア・グループワークを事前学習に取り入れた。その結果、インターンシップ後の調査では、実際の場面に応用できることを確認し、事前学習における質問行動の学習と練習が、インターンシップでの主体的行動につながることを報告している。

今年度の実践をベースとして、今回第Ⅱ象限にいた学生を第Ⅰ象限に移行させるためには、松坂・山本の研究を参考として、学生がより具体的に行動を認知することができる改善を2点考える。

- ① 班編成において、同じ実習先に行く学生を同一班に集めるだけでなく、同業種単位で班編成する。そして、前年度記録をもとにした反省シートは、業種ごとに起こる可能性が高いトラブル・問題点を書いたシートとする。このことで、学生はより当事者意識をもつことができると考える。
- ② 今年度のグループワークでは、反省シート提示ごとに意見を出し合うことに終始した班が多くかった。シート提示数を絞り、一つのテーマに対して十分議論して統一見解をまとめるワークとする。このことにより、グループワークでの学びが学生により認知され、実習での行動につながる可能性が高くなると考える。

これらの分析から、事前研修でおこなったグループワークの効果は明らかであり、仮説③「実習において、事前研修グループワークでの学びを活用して、トラブル・問題点に対処することができる。」について一定の成果があったと考えられる。

今後は、「トラブル・問題点の対処法・解決策」を知っていた・理解していたが、実践できなかった・活用できなかった学生が、実践できるようになるための事前学習の方法について研究していくたいと考えている。

7. まとめと今後の課題

本研究では、開発したカード型グループワーク教材の学習効果を確認するため、3つの仮説について検証をおこなった。事前研修直後、及び事後研修後の2回のアンケートの結果から、3つそれぞれの仮説を裏付ける一定の効果が認められた。このことは、インターンシップ参加学生の学習効果を高めると共に、近年急速に増えている民間企業によるインターンシップのマッチングサービスと一線を画す、大学ならではのインターンシッププログラムを構築していく上で、大変有益な取り組みになったと考えられる。

しかし、すべての学生にとって、事前研修で「学んだこと」が、実習で「実践できる」ことになるには、前述の課題のように未だ改善の余地が残されている。予期せぬ失敗に遭遇することにインターンシップでの学びの意義があると考えることもできるが、実践的な応用力を事前に学修し、参加学生一人ひとりがより体験したいことにフォーカスできる環境を整えることも、教育機関として取り組む

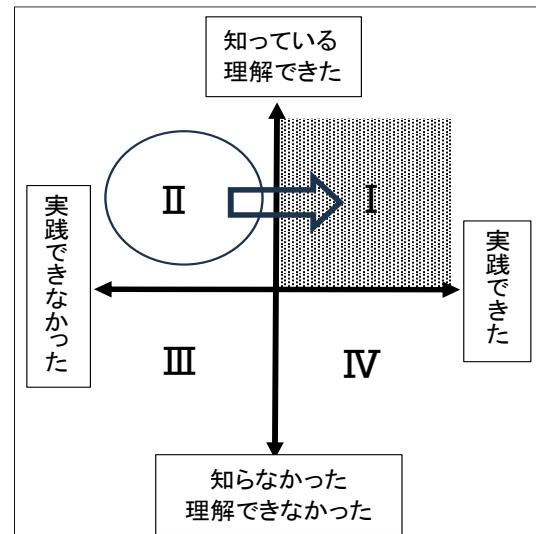


図9. 理解と実践マトリックス

べき対策の一つだと考える。これまでのインターンシップを通じて蓄積してきた数多くの体験レポートを活用し、大学での学びが実社会でどのように通用するのかを肌で感じることのできる貴重な実習機会を最大限に活かす支援のあり方、及び環境整備に尽力したい。

【注】

1 山本美奈子, 松坂暢浩（山形大学）『低学年インターンシップにおける キャリア意識の変化 一事前学習の質問行動に焦点をあててー』キャリアデザイン研究（日本キャリアデザイン学会），(18) 63-72, 2022 年 9 月。

2 岡本隆, 園田雅江, 曽我亘由, 深堀秀史（愛媛大学社会共創学部）, 岙康介（株大学サポート）『短期インターンシップによる社会人基礎力自己評価の変化』経営情報学 2019 年秋季全国研究発表大会。